

＜金山喜昭教授退職記念＞

金山喜昭教授 ご退職にあたって

法政大学キャリアデザイン学部長 荒川 裕子

長年にわたって本学部で教鞭をとられ、計り知れない貢献を果たしてこられた金山喜昭教授が、今年度をもってご退職されます。学部教授会のメンバーを代表して、先生に感謝の言葉を述べさせていただきます。

*

金山先生は2002年4月に、法政大学文学部教育学科の助教授として本学に着任されました。折しも同学科を発展的に改組し、キャリアデザイン学部という新しい学部生まれ変わる前夜に当たり、金山先生も早速、設置準備委員会に参加されました。翌2003年4月、新学部の創設とともにキャリアデザイン学部助教授となり、2007年には教授に昇格され、通算すると実に20年余ものあいだ、本学部のまさしく屋台骨として私たちを支えてくださいました。創設時より本学部は、教育（現発達・教育キャリア）、ビジネス（現ビジネスキャリア）、生活文化（現ライフキャリア）の3領域から構成されてきましたが、なかでもいささか輪郭がつかみづらい生活文化（現ライフキャリア）領域において、金山先生は常にリーダーとしての役割を務め、同領域の発展へと導いてくださいました。

2013年から17年にかけては2期4年間、本学部の学部長を務められました。それまで3代にわたり、学部のいわば基盤をなす教育（現発達・教育キャリア）領域から学部長が選出されてきましたが、創設から10年ほど経ち、学部の土台がおおむね出来上がったところで、初めて他の領域（生活文化〔ライフキャリア〕）からの学部長が誕生したことは、本学部の歴史が新たなフェーズに入ったことを強く感じさせました。学部長在任中の金山先生のご活躍やご苦勞の数々について

は、本紀要に収録されている「キャリアデザイン学部 オーラルヒストリー (2) —— 学部発展期の学部長による座談会」をご覧ください。一点、同座談会では言及されていませんが、2025 年 1 月 25 日に行われた金山先生の最終講義において、本学の廣瀬克哉総長による挨拶のなかで、学部長会議などの場で金山先生から力強い口添えがあったことが、「HOSEI ミュージアム」の開設につながったことを感謝する言葉が述べられたことを付言しておきたいと思います。

＊

さて、学部内で次々に責任ある立場に就かれる一方で、そもそも本学に着任された当初から、金山先生は資格課程の学芸員養成課程を統括するという大変な重責を担ってこられました。学部の運営に携わる傍ら、博物館学の入門から実習まで、およそ学芸員の資格取得に求められるカリキュラムのすべてを滞りなく遂行するという、いってみれば二人分の仕事を一手に引き受けてこられたわけですが、いずれも見事に対処なさったのは、金山先生の比類ないパワーゆえというほかありません。先に触れた最終講義では、法政大学から巣立って、現在各地の博物館で学芸員として活躍している卒業生たちによるパネル・ディスカッションも行われましたが、地域に深く根差し、市民とともに博物館を作り上げていこうとする彼らの姿には、金山先生から学んだ教えがしっかりと刻み込まれているのが見て取れ、非常に頼もしく感じたところです。

学部の教育においても金山先生は、キャリアデザインという、さまざまな専門分野の教員が集まって形成されている学際的な学部のなかで、ご自身の学芸員としての豊富なご経験や博物館に関する深い学識を、いかにして学部の理念とすり合わせていくかについて真摯に考え抜いてこられました。博物館を軸にしたまちづくりや人づくりといったテーマは、まさに金山先生ならではのユニークかつ魅力的なもので、本学部の学生たちに大きな刺激を与えてくださいました。そうしたキャリアデザイン学部での教育活動は、逆に先生ご自身の研究にも小さからぬ影響をおよぼしてきたように思われます。たとえば NPO による博物館の運営、指定管理者制度を導入した博物館経営、博物館のコレクション管理など、先生は博物館をめぐるアクチュアルな課題を次々に俎上に載せ、入念な調査をもとにシンポジウムやご著書を通して広く発信されてきました。その思索と行動の両輪からなるご研究のスタイルは、理論（教室授業）と実践（体験学習）からなる本学部

のカリキュラム構成を彷彿させるとともに、博物館と地域、博物館と市民といった多角的な視点から博物館にアプローチしていく姿勢もまた、キャリアデザイン学部という学際的な環境のなかで培われた部分が大きいのではと考えております。

＊

金山先生の途轍もない厚みと広がりをもつ研究業績については、本紀要所収の「経歴・研究業績一覧」をご覧くださいこととし、ここで繰り返すことは避けませんが、ご研究の多くが書籍のかたちにまとめられていることは、先生のご退職後も私たちが金山先生から学び続けるうえで、非常に有難いことと感じております。もちろん今後も先生は、法政大学名誉教授として、さらなる研究活動に邁進されることでしょう。先生の益々のご活躍をお祈りするとともに、これまで本学部に賜った多大なるご尽力に対して、心より御礼申し上げます。